

平成 30 年 7 月 25 日

(臨床研究に関する公開情報)

南和歌山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 「内視鏡的食道静脈瘤硬化療法における貫通静脈検出に対するゼリー充填法 EUS の有用性の検討」

[研究責任者] 木下幾晴 南和歌山医療センター 消化器科 医師

[研究の概要]

当科では食道静脈瘤治療においては血管硬化剤の血管内注入 (intra-EIS) を基本としています。しかし、傍食道静脈や壁在傍食道静脈からの貫通静脈 (Perforating vein : Pv) が存在すると、静脈瘤以外の血管に漏れてしまう危険性があり、注意が必要とされています。そのため、細径プローブ超音波内視鏡 (EUS) により Pv の有無を確認することが重要とされています。当科ではこれまで超音波内視鏡を施行する際、観察する食道内への注水法で行っていましたが、検査中咽頭への水の逆流をしばしば経験しました。水の逆流は誤嚥のリスクとなるため、2016 年 12 月以降医療用ゼリーを食道内に充填する方法を主に行っています。本研究の目的は、従来の注水法での EUS とゼリー充填法での EUS の Pv 検出能や合併症の頻度について比較し、ゼリー充填法 EUS の有用性について検討するものです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

食道静脈瘤の患者さんで、平成 22 年 4 月 1 日から平成 32 年 12 月 31 日の間に食道静脈瘤の治療前に超音波内視鏡検査を受けた方

●利用する検体、カルテ情報

利用する検体 なし

カルテ情報：

- ①内視鏡画像
- ②静脈瘤治療における情報 (治療方法、硬化剤の注入量、血圧、脈拍などのバイタルサイン)
- ③診断名、年齢、性別、身体所見

[個人情報の取扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

国立病院機構南和歌山医療センター

木下 幾晴 消化器科 医師

電話 0739-26-7050(代表) 消化器科 内線：680 FAX 0739-24-2055